

航空事故調査報告書

「中華航空公司(台湾)」所属
エアバス・インダストリー式A-300B4-220型B-194
鹿児島上空付近
昭和59年7月16日

昭和59年12月5日

航空事故調査委員会議決(空委第45号)

| | |
|-----|------|
| 委員長 | 八田桂三 |
| 委員 | 榎本善臣 |
| 委員 | 糸永吉運 |
| 委員 | 小一原正 |
| 委員 | 幸尾治朗 |

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故調査の経過

「中華航空公司(台湾)」所属エアバス・インダストリー式A-300B4-220型B-194は、昭和59年7月16日、同社の定期便として、台北中正国際空港から福岡空港へ向けて飛行中、18時29分ごろ、鹿児島上空付近通過後において、同機内の旅客1名が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、昭和59年7月17日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する者として主管調査官を指名した。

462001

1.2.2 調査の実施時期

昭和59年7月18日 事実調査

2 認定した事実及び事実を認定した理由

B-194は、昭和59年7月16日、旅客225名、乗組員16名（運航乗務員3名、客室乗務員13名）が搭乗し17時04分（日本標準時。以下同じ。）台北中正国際空港を離陸し福岡空港へ向けて飛行中、17時45分ごろ台北の北東約400Kmの公海上において、客室乗務員は座席28Bの男性旅客（69歳）の異常を発見し、直ちに同機内に乗り合わせた医師一名および看護婦有資格者二名に助力を求め、酸素吸入と人工呼吸及び心マッサージが行われた。しかしながら、鹿児島上空付近通過後の18時29分ごろ、同医師により同旅客の死亡が確認された。

同機は、18時54分に福岡空港に着陸し、直ちに福岡県警福岡空港警察による検死が実施された。その結果、直接の死因は心不全、病気の原因は心筋梗塞によるものと推定された。

3 原因

本事故は、飛行中に旅客が心不全により病死したことによるものと認められる。

462002